

第2期多摩市まち・ひと・しごと創生総合戦略

(素案)

2021（令和3）年3月



第1章 多摩市人口ビジョン	1
第1節 多摩市人口ビジョンの概要	3
1 位置づけ	3
2 対象期間	3
第2節 多摩市の人口の現状分析	4
1 人口の推移	4
(1) 人口の推移	4
(2) 年齢3区分別人口の割合	5
(3) 人口構造の推移（人口ピラミッド）	6
2 人口動態	7
(1) 人口増減の推移	7
(2) 出生数・死亡数の推移	8
(3) 合計特殊出生率の推移	9
(4) 転入数・転出数の推移	10
(5) 転入・転出の状況（年齢5歳階級別）	11
(6) 転入・転出の状況（地域別）	12
(7) 転入の状況（地域別詳細）	13
(8) 転出の状況（地域別詳細）	14
(9) 昼間・夜間人口の推移	15
(10) 流入・流出（就業・通学）の状況（地域別）	16
(11) 流入（就業・通学）の状況（地域別詳細）	17
(12) 流出（就業・通学）の状況（地域別詳細）	18
(13) 多摩市在住の就業者の状況	19
第3節 多摩市の将来人口の推計	20
1 人口の将来推計（総人口・年齢3区分別）	20
2 年齢3区分別人口割合の将来推計	21
3 人口構造の将来推計（人口ピラミッド）	22
第4節 多摩市が目指すべき将来の方向・人口の将来展望	23
1 人口動態から見た目指すべき将来の方向	23
2 将来展望人口	24
(1) 目指すべき将来人口	24
(2) 将来展望人口（目指すべき将来人口）	25

第2章 第2期多摩市まち・ひと・しごと創生総合戦略	29
第1節 第2期多摩市まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要	31
1 位置づけ	31
2 対象期間	31
3 ねらい・構成	32
4 評価の仕組み	33
第2節 第2期多摩市まち・ひと・しごと創生総合戦略	34
◆基本目標1：多様な働く場・働き方を実現し、安心して働くことができるまちをつくる	34
◆基本目標2：まちの魅力を高め、これを発信し、多摩市に関わる人を増やす	36
◆基本目標3：多摩市で産み、育てたいと思えるまちをつくる	39
◆基本目標4：ひとりでも安心して幸せに暮らし続けられるまちをつくる	42
◆横断的な目標1：多様な人材の活躍を推進する	46
◆横断的な目標2：新しい時代の流れを力にする	48

第1章

多摩市人口ビジョン

第1節 多摩市人口ビジョンの概要

1 位置づけ

我が国の人口は、2008（平成 20）年をピークに減少が始まり、今後加速度的に人口減少が進むと想定されています。その結果、将来的には経済規模の縮小や生活水準の低下を招くなど、日本の経済社会への影響が懸念されています。

このため国は、2014（平成 26）年に、日本の人口の現状と将来の姿を示し、人口減少をめぐる問題に関する国民の認識の共有を目指すとともに、今後、目指すべき将来の方向を提示することを目的として、長期ビジョンを策定しました。その後の国立社会保障・人口問題研究所の推計では、策定当時より人口減少のスピードはやや遅くなっているものの、引き続き国と地方公共団体がこの人口減少の課題に力を合わせて取り組んでいけるよう 2019（令和元）年 12 月に長期ビジョンを改定しました。

多摩市においても、国の長期ビジョンにおける課題等を踏まえながら、人口の現状分析や将来推計から今後目指すべき将来の方向を導出し、人口の将来展望を提示する「多摩市人口ビジョン」を策定しました。

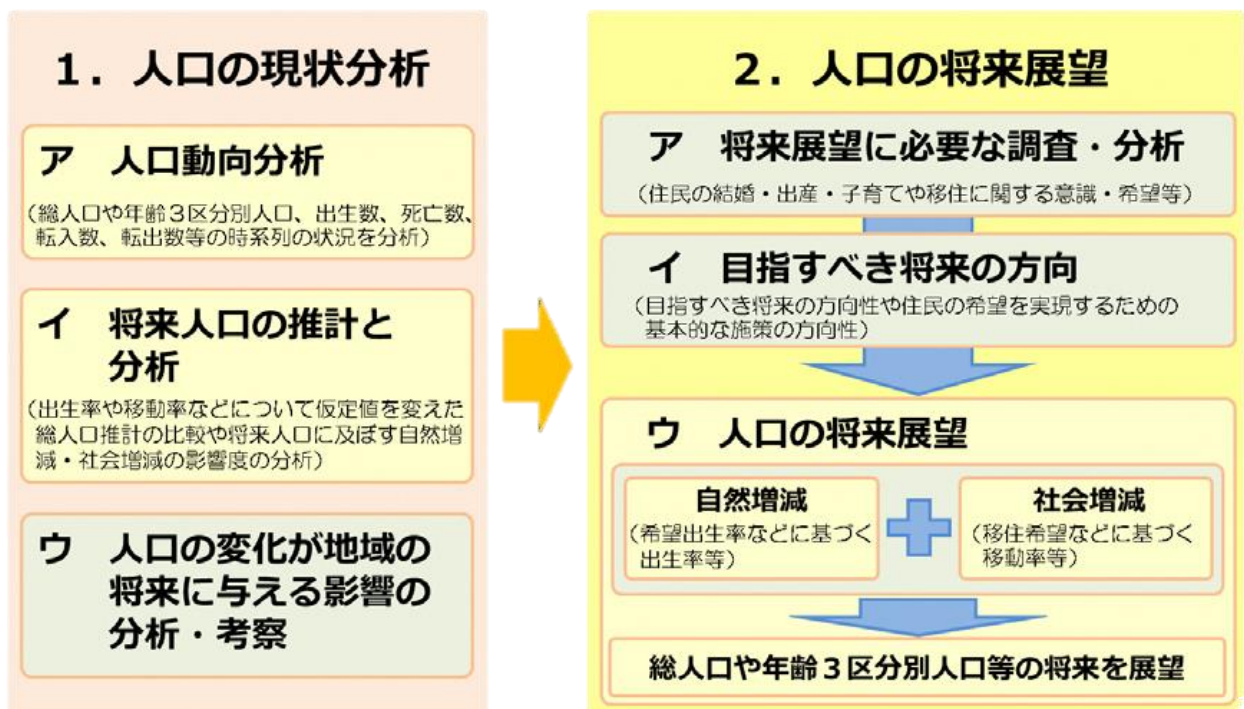
多摩市における人口の現状を分析し、人口に関する地域住民の認識を共有し、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を提示する「多摩市人口ビジョン」を策定しました。

2 対象期間

対象期間は、国の長期ビジョンと同様に、2065（令和 47）年までとします。

地方人口ビジョンの全体構成

- ・国の「長期ビジョン」を勘案しつつ、人口の現状を分析し、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を提示。
- ・対象期間は長期ビジョンの期間を基本。（地域の実情に応じた期間の設定も可）



出典：内閣官房まち・ひと・しごと創生本部

第2節 多摩市の人口の現状分析

1 人口の推移

(1) 人口の推移

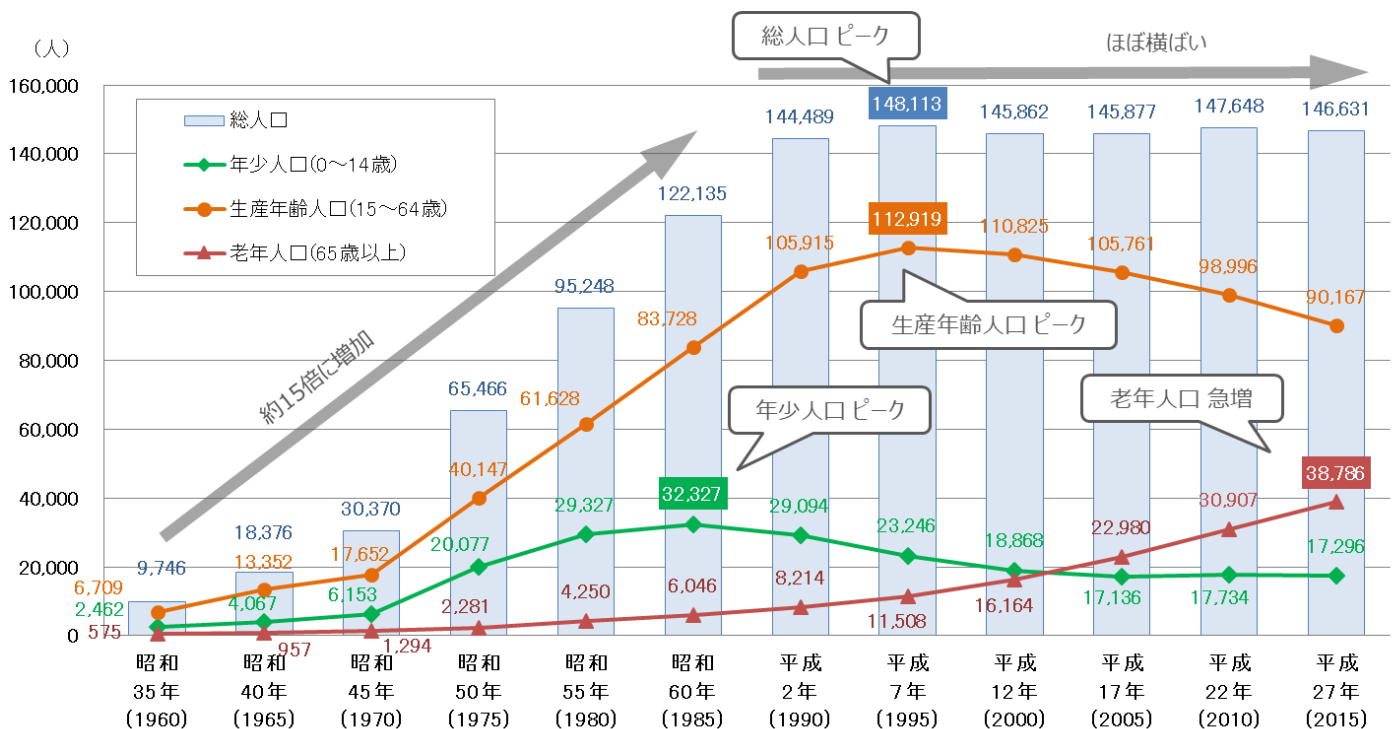
近年は人口横ばい・高齢者が急増

1960（昭和35）年には1万人に満たなかった総人口は多摩ニュータウン開発に伴い大幅に増加し、1990（平成2）年までの30年間に約15倍の14万人台まで増加しました。以降はほぼ横ばい傾向で、2015（平成27）年では146,631人となっています。

生産年齢人口（15歳～64歳）は1995（平成7）年をピークに減少傾向となっており、2010（平成22）年以降は、10万人を割り込んでいます。

老年人口（65歳以上）は近年増加傾向であり、2005（平成17）年には年少人口（0～14歳）を上回り、2015（平成27）年には約4万人に迫るなど、高齢化が急速に進行しています。

図 人口の推移



出典：国勢調査（年齢3区分人口は年齢不詳は含まない）

<参考> 2020（令和2）年1月1日現在 住民基本台帳人口（総人口）：148,823人

(2) 年齢3区分別人口の割合

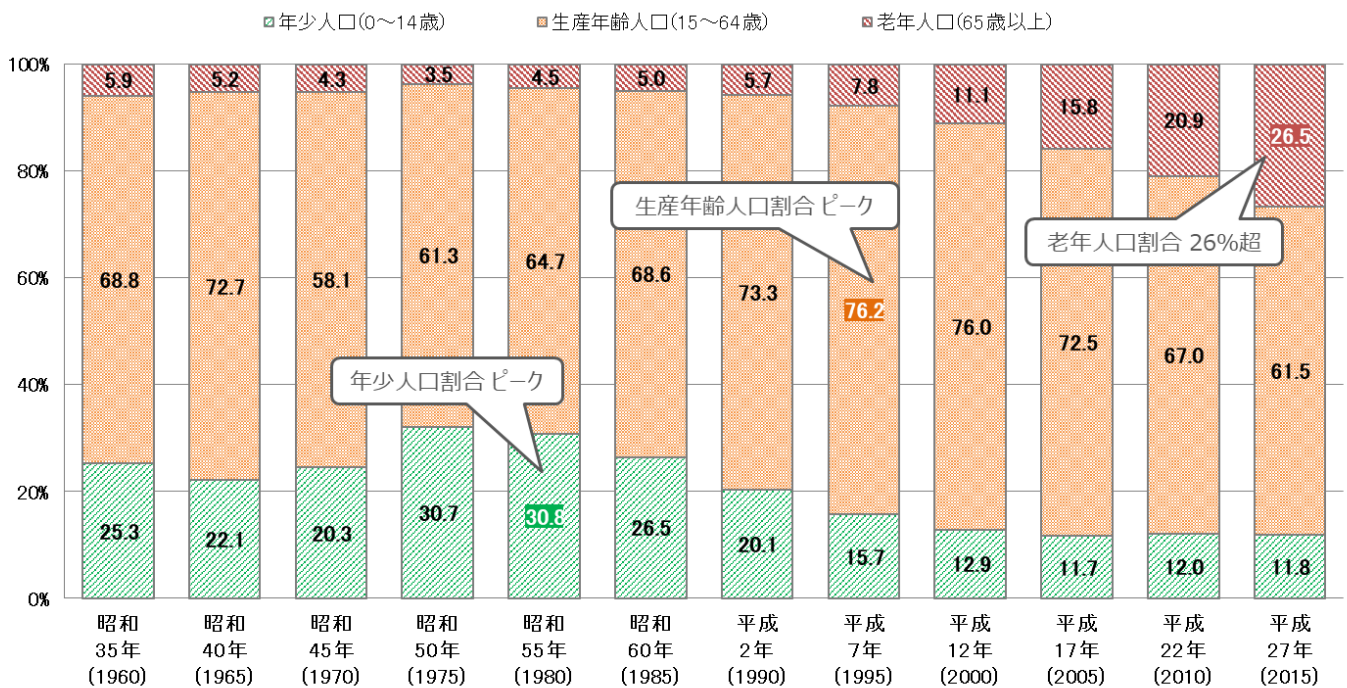
近年は高齢化が急速に進行

年少人口（0～14歳）の割合は1980（昭和55）年をピークに減少傾向となっており、2015（平成27）年では、11.8%となっています。

生産年齢人口（15～64歳）の割合は1995（平成7）年をピークに減少傾向となっており、2015（平成27）年では、61.5%となっています。

老年人口（65歳以上）の割合は2005（平成17）年から年少人口（0～14歳）を上回り、2015（平成27）年では26.5%となっており、高齢化が急速に進行しています。

図 年齢3区分別人口の割合の推移



出典：国勢調査（年齢不詳は含まない）

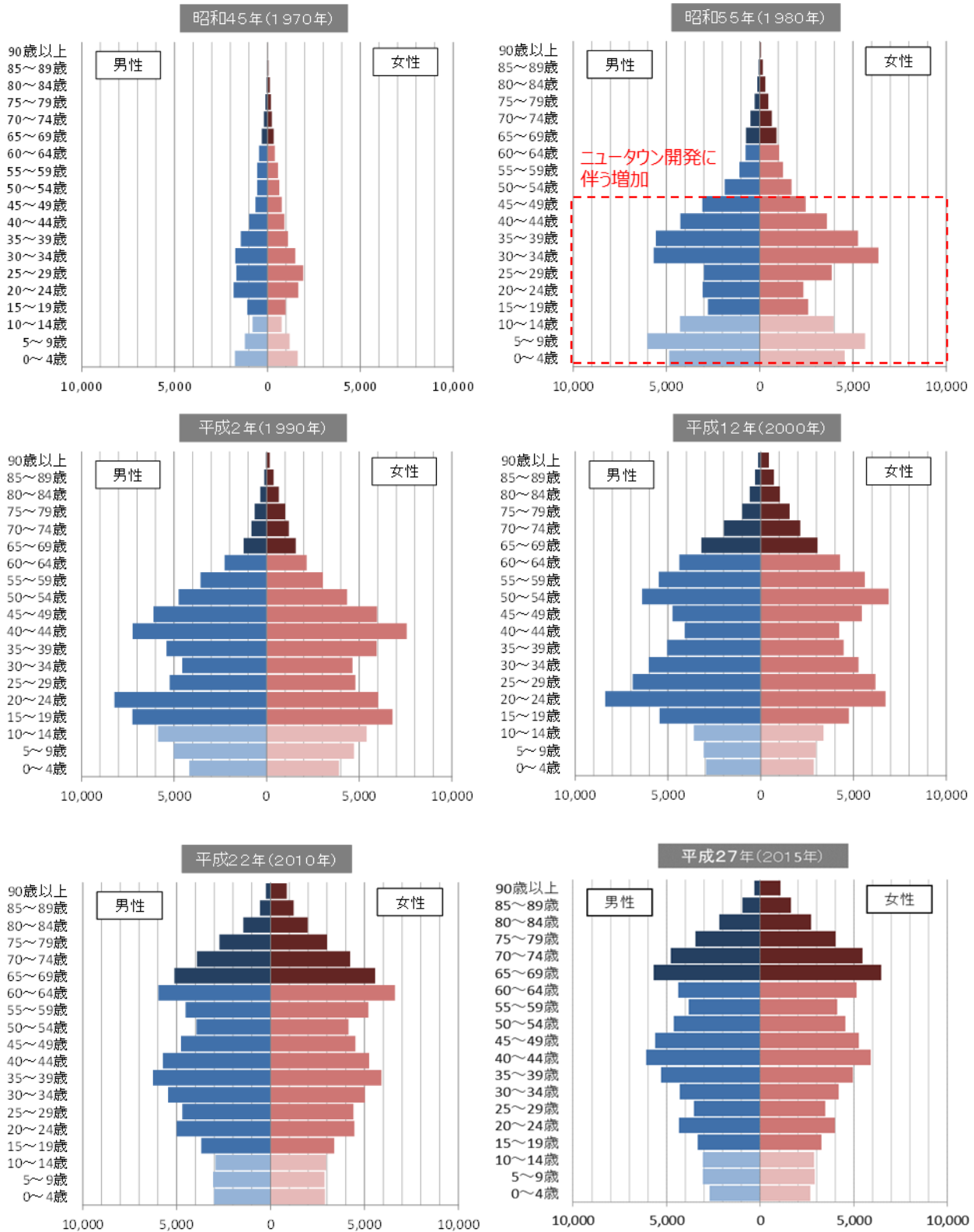
<参考> 2020（令和2）年1月1日現在 住民基本台帳人口

年少人口：11.6%、生産年齢人口：60.0%、老年人口：28.5%

(3) 人口構造の推移 (人口ピラミッド)

50年間で大きく変化・重心が高年齢層へ

人口構造はこの50年間で大きく変化しており、特に多摩ニュータウン開発期に増加した世代（当時20～40歳代が中心）の高齢化により高齢者が増加する一方で若年層が減少する傾向となっています。



出典：国勢調査（年齢・性別不詳は含まない）